



ふるコンだより

発行責任者

宇部市ふるさとコンパニオンの会

会長 脇 彌生

宇部市は県内でも比較的涼しい方だと思っていましたが、今年の夏はいかがでしたでしょうか？新型コロナと熱中症に警戒をした夏でしたが、これからは、新型コロナとインフルエンザに警戒が必要だと思われます。ガイド、個人共に、今まで通りの予防を続けたいと思います。それでは、令和 4 年度前期イベントの振り返りとともに、まもなく開幕の第 29 回 UBE ビエンナーレの話題や、英語小咄、宇部の昔の絵はがきのお話等を紹介します。今年の夏、思い返すとやっぱり暑かったですね。

てくてくまち歩き 「現代アートを巡る多美」

4/2、5/22

この“まち歩き”は、NPO 法人にっぽん i n g 協会が市制施行 100 周年記念として発行した『宇部市 現代アートを巡る多美』の冊子をヒントに、市街地の野外彫刻を巡り、周辺の歴史とともにそれぞれの彫刻がどのような経緯や目的で制作されたのか考察するのが目的です。

コースを二つに分けて、それぞれ行われました。①4/2 のコースは旧市役所前～郵便局～真締川沿い（山大病院付近まで）。②5/22 のコースは旧市役所前～宇部新川駅～渡辺翁記念会館。

屋外彫刻は、美術館に展示してあるものとは違って、その周囲の環境に大きく影響されます。まもなく「第 29 回 UBE ビエンナーレ」が開催されます。宇部市街やときわ公園に数ある抽象的な彫刻は、作者がなにを表



そりのあるかたち

現しているのか、どう見ればよいのかかわからないと思われる方もおられるかもしれませんが、大丈夫です。解釈は自由です。作品の制作意図はそれぞれ発表されますが、見る側の感じたままが全てです。例えば、「そりのあるかたち」（宇部新川駅前広場）は、『宇部の彫刻ガイド』には大きく羽ばたこうとする宇部の未来像を象

徴するかのようと解説されていますが、私はときわ動物園の人気者、シロテテナガザルが大きく両手を広げたように見えます。みんなでいろいろな見方で鑑賞することは、抽象的な彫刻の楽しみ方の一つだと思います。そのためには、彫刻を横から、斜めから、後ろから観たり、触ることができるものは触ったりして、すべての感覚で彫刻を楽しみましょう。また、作家のプロフィールや他の作品の情報をご紹介しますので、それらも大いに参考にしてください。

そもそも、彫刻作家はなぜ抽象



渡辺祐策像

彫刻を制作するようになったのでしょうか？抽象彫刻の中には、鏡面彫刻という、ステンレス等で制作され、表面に周囲の風景が写り込むものもあります。何が狙いなのでしょう？たとえば『ぺらぺらの彫刻』（戸田裕介編、武蔵野美術大学出版局）では、現代彫刻家の皆さんの制作時の葛藤がエッセイとして描かれています。「ブロンズや大理石で製作された具象彫刻は、中は空洞で、表現は表面的な造形のみである。それをもっと幅広く表現する方法はないのか」という願望が綴られており、とても新鮮に感じました。さまざまな抽象彫刻は、そんな作家の究極の選択かもしれません。そうしてみると、作家は何を考

えてこの作品を作ったのか？と、より真剣に探りたくなりませんか？

屋外彫刻は、年月が経つと、まちの風景に溶け込み、エピソードを生み出します。「SEED 増殖」を見ると、私は「ダイエー、Let's 09」を思い出しますし、「メッセージ」（旧エンゼル楽器店前）には、宇部の街で飲み会があるたびに遭遇し、その独特の雰囲気初めは戸惑い、後に慣れていきました。お互いにそんな話をしながら彫刻を鑑賞すると、より彫刻が身近にいきいきと感じられるのではないのでしょうか。（信濃）

てくてくまち歩き 「観音岳の花崗岩と厚南開作」

4/23

曇り空のもと、末信橋そばの駐車場に集合した登山姿の参加者 25 名とスタッフ 8 名は、正八幡宮に移動して安全祈願をし、2 班に分かれ観音岳を目指しました。

正八幡宮は 870（貞観 12）年頃、山城国男山八幡宮より勧請され、厚東氏の歴代に尊崇された神社で、1678（延宝 6）年刻字の鳥居があります。

アスファルトの急な坂道を霜降山配水池まで登り木陰で休憩しながら、1734（享保 19）年頃の地下上申絵図清図に観音山、石観音、観音堂、代官札場が描かれていること、地質図より観音岳が花崗岩



(みかげ石)の山であることを確認しました。そこから山道を花崗岩の巨岩を左右に見ながら進みました。

観音岳展望岩からは厚東川、厚南平野、興産大橋、竜王山などが見渡せます。厚東氏の時代には厚東川に入ってくる船が見える警護の要所でした。観音岳の山頂から少し下ると1678(延宝6)年の刻字のある石灯籠や1816(文化13)年の手水鉢などを見ることが出来ます。馬頭観音も祀られています。

少し下ると、花崗岩を切り出して馬そりで厚東川(かつては海)の方におろした痕跡が見られます。石切り場跡、加工場跡、石をおろすための広い道などです。江戸時代ここで働いた人々を感じながら下ります。観音岳の石を使って堤防や潮止め土手を作り厚南の開作が行われました。



さらに宇部坂下池の横をどんどん下り車道に出て、厚東川の末信と広瀬の間から石を石舟に積み込んで運び出した岸壁跡を写真で見てもらいました。その後、田畑や人家のある平坦な道をてくてく歩いて全員無事に末信橋に戻りました。(池田)

てくてくまち歩き

「草江は輸送機発祥の地、風を味わいませんか？」

5/14

今回のサブタイトルは風をテーマにしたので、どうしても飛行機の飛び立つ瞬間を見たいと思い、空港ふれあい公園駐車場を9:30集合にしました。前日からの荒天による強風を心配したものの、スターフライヤ

ー(SFJ)は9:40より10分程度の遅れで、黒い機体を見せつけるかのように離陸して行きました。次の9:55発のJALも定刻よりは遅れはしましたが西の空へ飛び立っていました。

参加者30名を2つのグループに分けてご案内しましたが、離陸が遅れた為、1グループはこの光景を見られずに、今が見頃とばかりに170品種約1000株が咲き乱れているバラ園へと向かいました。プリンセス・ミチコなどの名前がついたロイヤルゾーンもあります。



空港の薔薇園(2013年開園)

国内線のターミナルを過ぎるとイベント広場にもバラが華やかに咲き誇っています。宇部で生まれた「宇部小町」が愛らしい小さな花々をつけていました。

ところで国際線のターミナルは道路と建物が平行ではないのをご存知でしょうか？それは初代の滑走路は1966(昭和41)年1200mで今よりは少し北に向いていたそうです。経済の発展と共に輸送機の大型化で2000m(1979年)、2500m(2001年)に滑走路を延長することになり、鍋島が消滅しました。もし滑走路がもっと東へ向いていたらこの悲劇は起こらなかったかも知れません。

プーチン大統領が2016(平成28)年、山口宇部空港に降り立ち、ロシア側の厳重警護の中を専用車で駆け抜けて行った場所を通り、宇部で初めて飛行機が飛び立った草江句寄(くより)海岸へ向かいました。今はスーパーやドラッグストアの立ち並ぶ場所になっています。

1928(昭和3)年、葉方弘義氏が御大典記念で神原公園上空をデモンストレーション飛行したのを見た渡辺祐策翁が資金援助を申し出

たのが始まりでした。

その海岸に飛行機格納庫が建設され、昭和4年パイロット養成のための宇部航空輸送研究所が誕生したのです。今の空港事務所のあたりです。関西・四国・九州の航空路網を商業ベースに乗せようとしたが順調にはいかず唯一灯りが見えたのが別府-宇部間でした。しかしそれも社会情勢や経済状況などたくさんの事情がありうまくいかず昭和13年閉鎖に追い込まれました。



宇部航空輸送研究所 格納庫
(「宇部市デジタルミュージアム」より)

昭和5年頃には水上機の体験遊覧会や水泳大会や海水浴を楽しむ市民の姿があったそうですが、今はその海岸線に沿って児童公園の向こうまでアスファルト道路が続いています。

敷地内に「風」と名の付く彫刻が2つあります。一つは「風の譜」。風の吹く方向を見ているように私には感じられます。

もう一つは「風の塔 No10」で、作家の大成浩氏は人生の節目にはいつも吹きわたっていた風が心のなかにあるということからテーマにされました。2つの彫刻はこの場所が似合っていると思います。



岩城信嘉「風の譜」

最後に皆さんに「風を見て、風を感じて、風を味わっていただけましたでしょうか？」の私の問いに、それぞれが拍手で応えて下さいました。(三輪)

第 29 回 UBE ビエンナーレ (現代日本彫刻展) *作家さんからひとこと特集*



第 29 回 UBE ビエンナーレは、準備完了です。実物展示作品制作、設置も猛暑の中それぞれの特徴を見せて終わられました。

ふるコンメンバーも設置作業の合間に作家さんと交流を持って取材を行いました。公式のコメントとはちがう一言が聞けたかもしれません。

鑑賞の参考にして下さい。

①志賀政夫「そらいろのテーブル あるいは風の色のパズル」



6つの色は、サイコロを振って順番を決め塗っていったので、全体の色合いはここに置いて初めて確認しました。

②西澤利高「ディスタンス」

アクリル板を透過した光線、常盤湖の見え方、いろんな距離感を感じてほしい。



③平山悟「風のささやき」

(宇部在住)



ときわ公園の動植物をモチーフに、風や太陽をテーマに絵を描きました。

宇部を代表して頑張ります！



♡で結ばれたロシアとウクライナの国旗も

④「Silver Lining」909

制作拠点で隣り合わせの3人の部屋番号の総和が「909」。
アーティストユニットが話し合いながら作りました。



⑤「大地を編む」奥田誠一



芝生を編みこんだ所は、人々の強い結びつきの姿を表現しています。
どうやって作ったのか不思議でしょう？

⑥布藤嘉穂「わたしはここで」

2～3人のお子さんが中に入って楽しめるようになっていきます。ぜひ、入ってみて下さい。



⑦増野智紀「青空の月」



UBE ビエンナーレ出展2回目。前回の遊具のような作品とは異なるようですが、実はこれ「万華鏡」。中を覗いてみると…!?

⑧上田要「満一宇部の空気一」

宇部の空気や自然、景色など、宇部を取り込んだ、ここでしか作れない作品。鏡面に映る景色を楽しんで！



⑨藤沢恵「inflating shadow」



母親から子どもが見えるように作っています。手を握り写真を撮ってください。

⑩井口雄介「sky undulation」

ステンレスリングに映るときわ公園の景色を楽しんで！



⑪松本勇馬「変身」



どうぶつ？ひと？どっちなんだろう、何なんだろう？
自分で見て、感じてみよう

⑫岡田健太郎「月と山、水脈」

月、太陽、山、水脈。そして、月の光に照らされている夜。
この色は、工業用品の色。



⑬土田義昌「進化景色(森から)」



中から見ると、まあ不思議！
きれいな形になっています。

⑭佐野耕平

「In Wave ~ Departure」

さあ、ときわ湖に向かって静かに漕ぎ出そう。湖面の波は静かで、この船にぴったりの景色が広がっている。



⑮中村厚子「掘ることは生きること、生きることは掘ること」



宇部の海岸に打ち上げられた流木で、沢山の人の助けを借り完成。目に見えない何かを感じ取ってください。
一言「感謝！」

(ふるコン取材班)

S さんの英語小咄

「山口ゆめ回廊地域通訳案内士(信濃)」第 2 回:UBE ビエンナーレ

S さんと友人 M くん

M:「S 君、今日は何の話？」

S:「BIENNALE !」(※1)

M:「鼻炎な～れってひどいな」

S:「No ! UBE BIENNALE !」

The international sculpture competition is held in Tokiwa Park soon !」(※2)

M:「スカルプケアって何だよ。何か新しいシャンプーかスプレーくれるんか」

S:「No ! sculpture competition」

M:「わかってるよ。10 月から開催される「現代日本彫刻展」の話だよな。やっぱり現物を鑑賞しなきゃな」

S:「Yes!! Seeing will be worth than a thousand words !」

M:「そうなんだよね、百聞は一見に如かず。私が言うのもなんだけど、みなさん、第 29 回 UBE ビエンナーレにお越しください！」

S:「...英語わかるんだ(-_-)」(※1)

2 年に 1 回開催される美術展覧会(※2)

「ちがう！UBE ビエンナーレだよ！「現代日本彫刻展」が、ときわ公園でもうすぐ開催されるよ」

～～「一枚の絵葉書から」～～



宇部百景から 緑橋

真 締川に架かる橋で、宇部市制施行の 5 か月前、1921 (大正 10) 年 6 月 1 日に竣工しました。開通式には、鎌田家三代夫婦を先頭に渡り初めがあり、餅まきや義太夫大会を催し開通を祝ったとあります。

江 戸時代から宇部のまちは、岬から居能にかけて白い砂地に松が生茂って美しく、ことに真締川左岸付近は「緑ヶ浜」と呼ばれ、公募により「緑橋」と命名されました。後ろに見える高い煙突は、沖ノ山炭鉱で使う電気を作るために渡邊祐策翁が創業された宇部電気株式会社です。

緑橋は、幅 3 間(約 5.4m)、長さ 25 間(約 45.5m)で中央両側には装飾灯があり夜も明るく、当時としては随分ハイカラな橋だったことでしょう。

現 在の橋は、1977(昭和 52)年 3 月に架



装飾灯

け替えられましたが、装飾灯の一つが「かつては自慢の橋だったことを忘れないで」と言うように橋の西側にひっそりと佇んでいます。

宇 部が市になる直前の大正 10 年 10 月 10 日、宇部自動車組合(会社)が、新川ー宇部駅間にハイヤーによる“乗合自動車”の営業を始めました。当時の町じゅうの車はしめて 4487 台。その内訳はというと…ハイヤー数が 8 台、人力車が 50 台、自転車 2577 台、大八車 1625 台、荷馬車 227 台。「車」という字がつくものがすべて含まれるという今では信じられないくらいのんびりした時代でした。

当時の宇部自動車組合の新聞広告には、「緑橋を起点に常盤池までが 3 円、床波 4 円 50 銭、宇部駅 4 円。但し遠距離は特に割引申候」とあります。

緑 橋の東寄りに沖ノ山炭鉱重役だった新川(にいかわ)元右衛門の家があり、そこは宇部じゅうの炭鉱主の集まる場所だったとかで、宇部市が誕生したころの中心は、緑橋あたりであったことが察せられます。

それにしても緑ヶ浜、緑町が消え失せてしまったのは残念です。(脇)

まち歩き予定表

日付	企画名	集合場所・時間	内容
10/23 (日)	古地図を片手にまちを歩こう「藤曲コース」	藤山ふれあいセンター 10:20	「犬の尾っぽ」歩き、開作の石垣、三嶋神社、善福寺、西宮八幡宮 約 4 km
10/29 (土)	てくてくときわ公園「ときわ公園の憩いには文化漂う彫刻が必要だった」	彫刻の丘「蟻の城」前 9:50	この 60 年を振り返りながら公園と共に彫刻を見て歩きますか 約 1.5 km
11/3 (木)	てくてくまち歩き「美しい干潟を散策しながら遺跡と古墳めぐり」	古尾八幡宮(東岐波)鳥居前 9:50	波雁ヶ浜、キワ・ラ・ビーチ干潟、若宮古墳、月崎縄文遺跡、月崎岬古墳群など 約 4 km
11/20 (日)	古地図を片手にまちを歩こう「藤曲コース」	藤山ふれあいセンター 10:20	「犬の尾っぽ」歩き、開作の石垣、三嶋神社、善福寺、西宮八幡宮など 約 4 km
11/27 (日)	てくてくまち歩き「中也『思ひ出』の情景、れんがのある風景を歩いて」	白土海水浴場駐車場 9:50	和智元郷の墓、村松・煉瓦工場跡、獄ヶ鼻(村松海岸)、沖ノ須賀古墳など 約 4 km

■申し込み、お問い合わせ ※定員 30 名、受付は開催日の一ヶ月前からです。当日連絡先 090-9060-9752 (脇)

てくてくまち歩き

古地図を片手にまちを歩こう

てくてくときわ公園

宇部市観光交流課

宇部市ときわ公園課

TEL(34)8353

TEL(54)0551

FAX(22)6083

FAX(51)7205

